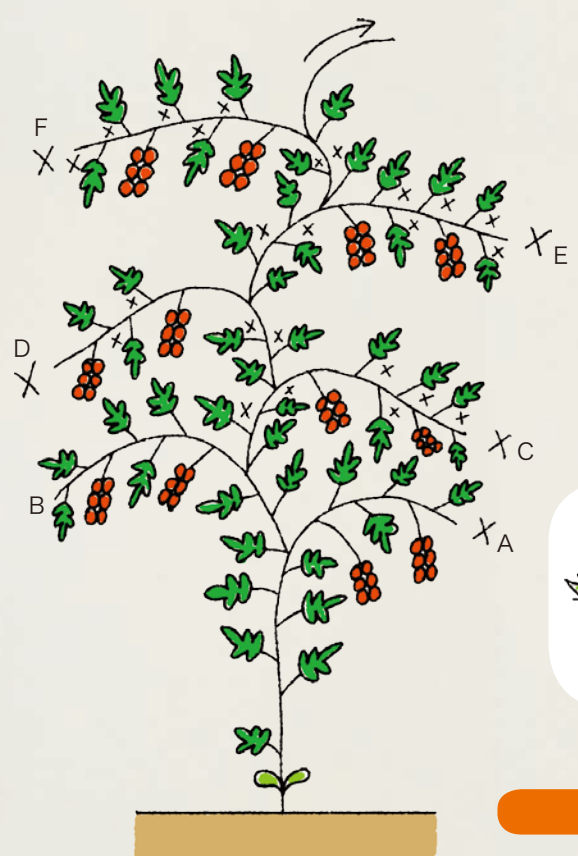




やってみる？
連続摘心栽培
 元千葉農業試験場の青木宏史先生が開発した仕立てかた。花芽の下にわき芽をとらず、摘心と捻枝を繰り返すことで、絶えず勢いのある茎葉や成長点を更新し、長期間にわたって栽培と収穫を続ける方法。



最初に伸びた兄(A)が息切れしはじめたときに、遅れて伸びてきた弟(B)に花房をつけさせる。

やりかた

- 1 2段花房の花が咲いたら、その上の葉を1枚か2枚残して摘心(A)
- 2 1段花房のすぐ下から出ているわき芽(B)以外は、全部摘み取る ※AとBを両方伸ばして仕立てる方法もある(2本仕立て)
- 3 1段花房のつけ根を慎重に180度ねじる(捻枝)。枝全体をひっくり返して下向きにする感じ
- 4 残したわき芽(B)も、同じように伸ばして捻枝
このあと、1~4を繰り返す

1本仕立てよりも花房がそろるのが早いから、うまくいけば家庭菜園でも4段分以上収穫できるかもしれんぞ！

兄も弟も、どっちも活躍できるぞだてかた！



「主茎」と「わき芽」は兄弟なんじゃ！



図3



1 成長点が花芽になる



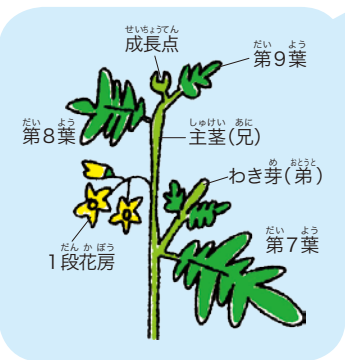
2 花芽の両わきに成長点ができる



3 片方の成長点(兄)が伸びる



4 もう一方(弟)も遅れて伸びる



遅れて出たばかりに

なんだがもったいない



おなじくらい大きくなれるのにね

花芽の下の「わき芽」のひみつ

トマトは一見、1本の茎から葉や花が出てるように見えますが、じつはちがいます(図3)。トマトの成長点は、葉を数枚つくと花芽になり、上へ伸びるのをやめます。でもそのあと、花芽の横に新たにわき芽(成長点)が2つでき、先に伸びたほう(兄)を「主茎」として上に伸ばします。

そして、あとに伸びるもうひとつの成長点(弟)が、「花の下のわき芽」です。これを早く取らないと、主茎と同じくらい太くなり、主茎に送られる栄養分を横取りしてしまうかもしれないのです。2つのわき芽のうち、1本を残していく作業を繰り返した結果、1本の茎のようになっていきます。

ほかのわき芽は？

花芽の下以外にできるわき芽は、樹が余力でつけるもの。力強くはありませんが、風通しが悪くなったり、栄養が分散してしまうので、やはり早めにとったほうがよいでしょう。

※わき芽を取らないで栽培するソバージュ栽培(2015年春号「こだわり」プランター栽培)参照)や、芯止まり品種もある。